

第1回福知山市行政改革推進委員会 議事概要

日時:令和6年5月1日(水)

午後3時から

場所:市民交流プラザ4-1

■ 出席者

【委員(敬称略)】

井上 拓、浦尾 たか子、菊田 学美、深尾 昌峰、細見 祐介、村尾 慎哉

※井上委員、深尾委員、村尾委員はオンライン参加

【市】

大橋市長、市長公室長、財務部長、経営戦略課長、財政課長、事務局

市

まず、開会にあたり、市長 大橋 一夫より御挨拶申し上げる。

市(市長)

令和6年度第1回目となる行政改革推進委員会に、ご出席をいただき感謝申し上げます。

さて、本市のまちづくりの基本的な指針として令和4年3月に策定した「まちづくり構想 福知山」では、9つの基本政策に掲げる目標の達成に向けて市が取り組む具体的な方策である60の施策について、令和4年度から取組を進めている。

施策の推進については、限られた経営資源を最大限に有効活用し、効率的、効果的に各施策を進めるため、施策の取組を職員自らが自律的に確認・点検を行う、施策の一次レビューと合わせて、市民の皆様に公開されたオープンな場で、専門的な知識を持たれる委員の皆様と議論を重ね、市民と行政の協働のまちづくりを促進する取組である二次レビューを実施しており、試行実施も含めて今年度で3回目となる。

施策レビューの実施については、行革委員の皆様から非常に多くの御助言と御指導いただくとともに、二次レビュー当日は施策改善推進員として御参画いただき、専門的な知見に基づく御指摘や改善提案を投げかけていただくなど、多岐にわたり御支援をいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、「まちづくり構想」に基づく取組については、令和6年度は計画年度の中間年として、各取組の成果をより一層高め、具体化を図っていく必要があると考えている。

また、「まちづくり構想」に掲げる施策・事業を着実に推進し、持続可能で発展的なまちづくりを進めていくために、常に時代の変化に適応し、時代を先取りして市役所自体が変わり続けることも必要であると考えている。令和4年度から取組をスタートした「行政改革大綱 2022-2026」においては、ICT などの積極的な活用と DX 推進による抜本的な業務改革をはじめ、市役所の組織体制の見直し、住民との対話や多様な主体との協働による課題解決をめざすべく、4つの基本方針、16の取組を掲げ、全部署、全職員が一丸となり取組を進めている。

「まちづくり構想」や「行政改革大綱」に基づく取組を実効性あるものとするため、委員の皆様からの御意見については、真摯に受け止め、不断の改善に向けて活かしていく。

今後も、市民の皆様に信頼いただける市政運営を進めてまいりますので、行財政改革全般に関する取組について、引き続き御指導いただきますようよろしくお願いを申し上げます。開会の挨拶とする。

1 令和6年度委員及び事務局体制の紹介

市

事務局から本年度の行政改革推進委員の皆さまの御紹介をさせていただきます。

【資料1】について説明

井上 拓 (いのうえ たく) 様
浦尾 たか子 (うらお たかこ) 様
菊田 学美 (きくた まなみ) 様
深尾 昌峰 (ふかお まさたか) 様
細見 祐介 (ほそみ ゆうすけ) 様
村尾 愼哉 (むらお しんや) 様

福知山市職員については、事務局として市長公室及び財務部職員が出席する。

【資料2】について説明

2 委員長・副委員長の選出

市

「資料3 福知山市行政改革推進委員会規則」第4条第1項に、「当委員会に委員長1人、副委員長1人を置き、委員の互選によってこれを定める」とある。

委員のみなさまから委員長、副委員長について立候補、又は推薦はないか。

(→なし)

特に、立候補、推薦がなければ、事務局より提案させていただきたい。よろしいか。

(→異議なし)

それでは、昨年度に引き続き、深尾 昌峰 委員に委員長を、菊田 学美 委員に副委員長をお願いできればと思うが、いかがか。

異議なければ、深尾 昌峰 様、委員長の就任についてご了承いただけるか。

委員

了承する。

市

菊田 学美 様、副委員長就任についてご了承いただけるか。

委員

よろしくお願いします。

市

深尾様、菊田様には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いします。

深尾委員長に一言ご挨拶いただきたい。

委員

改めましてよろしくお願ひしたい。

気心知れた皆さんということで、これまでと同様、活発な議論ができればと思う。何卒よろしくお願ひする。

3 報告事項

・自治基本条例推進委員会の取組について

【資料4】について説明

委員

令和6年度の取組の進め方について、昨年度、一昨年と着実に検討されたとご報告をいただいたが、今年度、残り10の提案については、これまで参加していた21人の委員が新しい提案を検討するのか。メンバーの入替えや新たな方の参加はあるのか。どういった形で議論を進められるか、もし企画等、お考えがあれば伺いたい。

市

委員については、これからお願ひをする予定であり、現メンバーと全く同じということは決まっていない。また、委員の任期は2年である。

委員

任期は2年で、令和6、7年度で新しい任期の方を募集、お願ひをすることでよいか。

市

そうである。

4 議事

(1) 施策レビューについて

- ・令和6年度施策レビューの取組の方向性について【資料5】
 - ・二次レビュー対象施策の選定【資料6】
 - ・二次レビュー実施日程及び当日のタイムスケジュール【資料7】
- 【資料5】【資料6】【資料7】について説明**

委員

コメントと質問をさせていただく。

今回ご提案いただいた二次レビューの候補は、理にかなった、よく練られた候補だと拝見した。今回はかなり時間をとってディスカッションすると捉えた時に、今回のテーマは多岐に複数施策が絡み合って検討しなければいけないことや、より良い暮らしを考える時に非常に重要な、子ども・子育てと、高齢者支援の2つの軸であること、総合的な対策が必要となる防災・減災を2日間で議論する時に、合理的なスケジュールであると考えます。

他にも関連の強い施策もあるが、2日間で行うことを考えると、これ以上施策を増やすのは難しいと強く感じたため、これ以上の選定候補について私から追加や減らすといった提案は特にない。

一点質問をする。

「政策目標3-2 すべての子どもが大切にされる地域づくり」の選定理由について、福知山市の第2期子ども・子育て支援事業計画に関して、今年度が計画の最終年度と伺っている。

事業としても第3期事業計画策定が予算に盛り込まれていると捉えているが、この案件の選

定理由に書かれなかったが、理由があればお伺いしたい。

また、施策レビューと計画時期がどのように関連してくるのか、今後の取組として考えがあれば伺いたい。

市

令和5年度に「多様な学びアクションプラン」計画に基づき事業推進が開始されている。子育てにおいて、重要な施策であることから、アクションプランが整った段階において議論をいただく。

委員

もう一点コメントする。

過去2年間の施策レビューでもあったが、事業計画が計画中の段階で施策レビューを行うと、今後決定するというような議論となり、委員や市民パートナーと議論が噛み合わないケースがあった。施策レビューの中でそのような議論の流れにならないようにしていただきたい。

また、未決事項であれば、施策レビューの結果を計画に盛り込んでいくような組立方、説明の仕方、検討の進め方をしていただくとともに、担当部課の方と検討、準備をお願いしたい。

委員

案件3「政策目標6－2 地域包括ケアシステムの推進」の選定理由について、令和4年度に第4次福知山市地域福祉計画、令和5年度は第10次福知山市高齢者保健福祉計画が策定されたとあるが、政策目標6－2の施策との関連性は何か。施策が策定されたから、意見をいただくことはわかるがどのように関連してくるのか。

市

施策の推進において、分野ごとの計画を作っており、その計画に基づいて事業を進めている。また、まちづくり構想に基づく目標についても達成できるよう、計画が策定されていることから、議論するには良いタイミングだと考え選定した。

委員

政策目標6－2を二次レビューで取り上げて議論することで、2つの計画に波及効果があるため選定したのか。

市

そうである。

委員

施策レビュー全体の流れをもう一度確認したい。

一点目、一次レビューは60施策を庁内担当課と経営戦略課間で実施しているのか。

二点目、資料5について、一次レビューの取組について、課題の大きい施策や連携によって課題解決が期待できる施策をピックアップし、経営会議において議論すると記載があるが、一次レビューを経営会議において議論する施策と、今回の二次レビュー対象施策は全く関係がないのか、一致しているのか伺いたい。

三点目、一次レビューで出てきた議論の内容と、二次レビューで議論する施策内容との整合性や関連性をどのように取っていくのか。

市

一次レビューは、現在、各部署から施策レビューシートの提出があり、経営戦略課で確認を行っている。今まではシートの確認後、二次レビューに関わる案件については精度を高めるところで留まっていたが、「まちづくり構想 福知山」が中間年をむかえることから、施策レビューシートは、各部署・各課と調整し、指標の達成度合いや基本政策への貢献度について、一緒に確認や検討を進めたいと考えている。

一次レビューと二次レビューの関係について、二次レビュー以外の施策を一次レビューで議論したいと考えており、経営会議で議論する内容について、二次レビューで選定された施策は今のところ想定していない。一次レビューの中で特に課題が大きい施策や、部長同士が連携することで課題解決できそうな施策を経営会議の中で議論する場にしたい。

委員

二次レビューで議論する施策と、経営会議で議論される施策は住み分けがあるのか。

市

そうである。各課と調整できている段階ではないが、二次レビューで選定された施策以外にも確認を進めるとしているため、一致することはないと考える。

委員

一点目、資料5の2ページ目の二次レビュー選定候補案について、案件1「政策目標2－1 防災・減災、災害対策の強化」のテーマは、令和4年度に二次レビューを1度実施している。今回の候補施策の選定理由は、他の施策において課題解決の示唆になり得ると記載されているが、ここの意味について説明いただきたい。

二点目、地震に備えた取組、要配慮者の避難支援に係る取組の課題に対して議論すると記載があるが、委員や市民パートナーは防災について素人である。おそらく、議論は一般論での議論になると考えるが、地震に備えた取組や要配慮者の避難支援に係る課題解決に向けた取組は、他自治体の取組事例などを参考に実施される方が、市民や委員の一般論の話を聞いて実施するより、ポイントが明確になるのではないかと。

三点目、案件2「政策目標3－2 すべての子どもが大切にされる地域づくり」について、子育て施策は非常に重要と考えるが、施策選定理由の最後に、取組内容の周知と合わせて多様な意見、助言を得る場とすると記載があるため、委員や市民パートナーの選定において、ある程度子育て世代の方を選定される予定があるのか伺いたい。

市

防災、減災の関係は、他の施策の示唆に繋がるところで選定をしている。令和4年度は災害時の要配慮者避難支援について、個別の避難計画を作り、モデル実施を行っている段階であった。昨年度から福祉部局において、災害時ケアプラン推進係という新たな部署を設けて専門的に実施している。また、要配慮者の災害時の避難は、健常者の方と異なり、移送の問題や、一般的な体育館等の避難所では十分な避難が難しいという現実がある。移送に関して、福祉有償運送などと一緒に考え、提案型のサービスシステムの構築を進めている。避難所生活についても、特別養護老人ホームに避難していただいたときに、施設スタッフに見ていただくことが難しいことから、避難支援者を要請する取組を進めている。防災に繋がらなかった分野も巻き込みながら、福祉部局、防災部局が連携して実施しているため、市民への巻き込みや市役所間での連携強化という点では、他の施策にも波及効果があるのではないかと考えるため今回、対象施策として選定した。

委員

市民に対して、横串を入れた取組をPRする目的で実施するという意味か。

市

そういう意図もある。要配慮者の避難支援は、市役所だけが実施するものではなく、自助と共助も重要であることから、レビューで公開することにより、福知山市全体の避難を考えていただく狙いもある。

また、他部局の施策と繋がることから、連携することで課題解決に繋がることを示唆するような内容としているため、再度レビューに臨もうとしている。

委員

一点目の根本的な疑問として、今回3時間かけて二次レビューを実施されようとしている。防災は重要な課題と考えるが、令和4年度の二次レビューで、ある程度道筋ができている中で、敢えて1年置いて再び取り上げる必要性が認識できないため説明してほしい。また、議論をしてもおそらく一般論で終始する可能性があるため、ある程度、取組が進んでいるのであれば、敢えて取り上げなくても進められるのではないか。その意図を教えてください。

市

この行革委員会の中で、1回実施したから終わりではなく、他の施策に波及するような取組であれば、2回目を実施してはどうかとの意見も頂いた。施策を検討したところ、防災が該当するのではないかとということで提案させていただいた。

委員

二次レビューをもう1回やる意味で議論に耐えうるか、時間的な問題も含めて、二次レビューの素材として適切なのかを問題提起している。素材自体が他施策への波及効果が期待できるという点で、様々なところを巻き込んで実施していることはわかるが、専門性が高い施策であり、二次レビューで深めるよりも、他市の事例や、担当者が分析をすることで政策に活かす方が良いのではという意味合いも含めて、2回目を実施すること自体を否定しているわけではなく、この施策をもう1回やるのがふさわしい施策かを改めて確認をしたい。

委員

私の意見の結論から言うと、防災面は関係部署も非常に多いため、福知山市として全庁を挙げて連携しながら、横串で進めている施策であり、より進捗している状況をアピールするという意味において、1つの大きなモデルとしてチャレンジにやってみようかと考える。そういう意味で、一次レビューは課題の大きい施策や、連携による課題解決が期待できる施策をピックアップし、経営会議において議論すると話があったが、候補となる施策も経営会議において議論いただき、その上でこの防災も含めて、経営戦略課としても議論を踏まえた上で出てきた施策であると言っていたら、ロジックとしては成り立つと考える。

委員

過去の振り返りも含めて、この施策を取り上げるかどうかについては、純粹に課題や論点があるかが1つのポイントと考える。能登半島地震を踏まえて、福知山市でも施策や事業の見直しが必要なのであれば、他自治体の取組を踏まえ、福知山市に照らし合わせたうえで、二次レビューで時間を取って議論をすべきである。

しかし、論点が特に無く、前回の委員や市民パートナーから非常に有効性が高い評価を得た事業・施策の中で、改めて進捗が順調に行っているという議論をするのであれば、時間がもったいないと感じた。改めて福知山市で、この施策について見直しを図ることや、議論すべき内容であるか、この施策を取り上げるかを今一度評価いただきたい。

委員

今のポイントは非常に重要である。論点は何か。ただ単に他施策の参考となり、波及効果があるからでは、この機会でなくても職員研修で共有するでも良いだろう。二次レビューで実施するのであれば、新たな論点が無いと時間的に持たないとする。

新たな論点をどれだけ設定できるかが先に来ないと、施策レビューの選定としてはしんどいのでは。

市

この案件について、同じ意見を感じている。

1つは、連携ができている好事例ということで広めたい。もう1つは、福知山市は地震災害の経験があまりないことから、水害対策はある程度できているが、地震災害は十分でない現状にある。最大震度7の断層もある中、能登半島地震で本市から100名を超える職員が支援に向かい、現地を見た上で、本市にどのように落とし込むかといった検討を今年度に進めていく中で、二次レビューでも示唆いただけることがないかという点で2つのポイントをセットにした。ただ、二次レビューで、一つの施策でバラバラな議論を進めると、議論の進め方によっては成立しうるのか、事務局としても課題と感じている。

委員

「政策目標2-1 防災・減災、災害対策の強化」の成果指標は避難訓練の参加者数で最終目標4万人としている。また、2-1-1に関しては、自主防災組織の組織率で100パーセントを目標にしているが、進捗を見た時に順調に進んでいるのか。それとも物足りないのか。最終年度でテコ入れが必要なのか、この点についてどういった評価をされているか。苦戦しているのであれば、施策として課題があると捉えられ、レビュー対象とする施策としての判断材料の1つとなるため、分かれば教えていただきたい。

市

自主防災組織の組織率については、令和5年度の段階では目標値が95.9パーセントに対して実績値は91.7となっており、目標値には少し届いていない。それから、防災訓練については、参加者数は1万人台で推移しており、8年度目標値である4万人には至っていない状況である。

委員

そちらも1つの論点になるかと思うため、そこも踏まえて検討いただきたい。

委員

3時間の長丁場となる二次レビューでピックアップする目的が、令和4年度に実施しているのに、敢えて選定する必要があるのかがもう一つ分からない。その辺も踏まえて、選定しているのであれば結構であるし、従来の中でやるのであれば、時間が持たない可能性もあるため詰めていただきたい。

委員

論点の設定がどのようにできるか預からせていただき、事務局と協議を進めたい。
では3点目の「政策目標3-2 すべての子どもが大切にされる地域づくり」の質問について回答をお願いしたい。

市

子育てに関する困りごとを当事者として抱えておられる方に、議論で関わっていただく方がより効果的な二次レビューの場になるのではないかと指摘と受け止めている。今回、二次レビューに関わっていただく委員については、これから選定する段階ではあるが、まちづくり構想を検討していただいた委員の方からも参画いただいているなかで、子育て分野に関わっていただいた方に施策改善推進委員として関わっていただけるよう選考案を進めていきたい。

委員

防災の課題・施策も含めて、一市民としては、これらの案件は大変興味深く、生活に密着しているテーマであるため、論点整理ができるのであれば、防災に関しては、多くの市民が地震直後のため不安も大きいことや、私自身も要支援者を2人抱えていることから、是非とも論点整理をお願いし、二次レビューの対象施策としていただきたい。

また、経営会議で議論される施策と二次レビューで議論される施策について、せっかく実施するのであれば、二次レビュー候補となる施策も経営会議で議論いただき、話の論点整理することでより施策が深まっていくのではないかと。

市

一次レビューの結果、また二次レビューの結果を踏まえ、経営会議にどう繋げていくのかという点で、昨年度までの反省を踏まえると、一次レビューはこの春先にシート作成作業を各課へ依頼し実施したが、その後、二次レビューの対象施策以外も含めた60施策の課題点や、気になった点の後追いをし、予算に反映するところまで確認ができていたかということ、これまでは二次レビューの取組に軸足があったため、一次レビューの追いかけが甘かったことが反省点としてある。

昨年度は、二次レビューで市民や委員の皆様からの意見は、対応の方向性ということで経営会議へ報告したが、一次レビュー結果について全体を通してまとめたものを合わせて経営会議へ繋げていけていたのかという点と少し弱かった。

今年度の一次レビューは、各課へのシート作成依頼と経営戦略課でのチェック、二次レビュー候補施策の選定までは進んでいる。昨年度を踏まえ、この結果について、レビューシートを持って各課へヒアリングに回るとともに、各部署で施策の取組を実効性あるものにしていく中で、場合によっては複数部署にまたがる案件も出てくると考える。そういった案件は、二次レビューの結果を待たず、経営会議で複数部署にまたがる案件としてご提示いただき、かねてから内部で取り組んでいるサマーレビューやオータムレビューの場に繋げていきたい。

委員

「政策目標2-1 防災・減災、災害対策の強化」について、地震に備えた取組が福知山市としてできていないから、二次レビューで議論できればという話だったが、そもそも二次レビューは新しいものを出すというより、やってきた取組を評価してもらい、より良くしていくものであるため、できてないところを土台にし、二次レビューとして選ぶのは話が違うのではないかと。市として、まず取組ができた上で、対象施策として取り上げ、二次レビューへ持ってくるものだと思うため、その順番が気になった。

委員

意見が多かった案件で案件1「政策目標2-1 防災・減災、災害対策の強化」は、どういう位置付けにするか事務局でもう一度詰めていただきたい。本日は、宿題的に置いておく。

二次レビューの性質と、この案件1(政策目標2-1)で、何をどのように市民と議論するか。道筋が見えることは大事である。一方で、防災は非常に重要で、市民的関心度も高いことは、確かにそうである。それが二次レビューの目的とどう合致するのか、単なる広報的な取組ではないということも含めて、論点整理をどう持っていくか預からせていただきたい。

(2) 事務事業評価シート

【資料8】について説明

委員

実際にこのシートを使って、担当部署が記入を進めるのはいつ頃か。

市

作業スケジュールは案段階であるが、5月中を目途に様式を各担当課へ配布をしていきたい。実際に使うシーンとしては、次年度予算要求時に事務事業評価シートを提出資料として設定しているが、次年度向けの予算要求時は新様式で全ての事業について提出できるように、準備期間を設け、早い段階で各課へ引き続き説明資料や記載資料を交えながら周知を図っていきたい。

委員

二次レビューに向けて作成される対象施策に紐づく事務事業評価シートは、新様式で作成される認識であっているか。

市

二次レビューの資料で、施策と施策を構成する事業の関連や紐付けについてわかる工夫が必要ではないかという点は、これまでもご助言いただいていた。

二次レビューで提出をいただいた施策体系シートは、施策で設定している指標や課題・取組の方向性に対してどのような主要事業が紐づいているのかを A3の1枚資料で示していたが、新様式では、事業のアウトカムと施策のアウトカムの繋がりがある程度明確になってくる。主要な事業について、二次レビューの当日でも説明するコマがあるため、新様式を活用していただきたい。このままの形で活かせるかどうかは課題としてあるが、施策との繋がりを表現できるような様式にしているため、同じような資料を何回も作成することがないよう、できるだけ効果的に様々な場面で活用できるよう工夫していきたい。

委員

庁内で新様式についての説明を進めているお話をお伺いしたが、このシート自体を担当課が作成する時に、最終的に担当課の課長や部長が確認する流れになると認識しているが、実際の運用面で誰が書いて、誰が最終確認をするのか、経営戦略課として運用面で指導されるのか。ルールなどの提案をされているのか伺いたい。

市

様式の項目を埋めることが目的ではなく、この様式を埋める過程で、事業当初の背景や、ど

こをめざしているのか、評価をきっかけとして課の中で議論や対応をしていただくことが重要である。そこは庁内の説明会でも強く伝えたところである。

事業は1、2年で終わるものではなく、複数年続く事業が多い中で、複数年続く事業に携わる担当者は2、3年で変わることも多い。事業を継続するところに軸足が置かれ、当初の問題や何を背景として事業が開始されたのか、現在担当している職員だけではこの項目に落とし込むことは正直難しいのではと考える。特定の職員だけが作業するのではなく、上司や担当課のメンバー、過去の担当者と議論を進め、どんな背景があったか確認いただきたい。また、このシートを作成する時だけでなく、日々の業務の中で事業・施策の話が行われるよう、職場作りでもこのシートが役立てば良いと思う。

委員

埋めるのが目的ではないということが一番重要と考えるため、進めていただきたい。

(3)年間スケジュールについて

【資料9】について説明

委員

一次レビューの結果について、前回提示いただいたスケジュールでは、本日報告とあったが、先ほど報告いただいたような議論の結果も踏まえ、次回ご報告いただく認識で良いか。

市

一次レビューの取組状況について、2回目、3回目の会議で随時、二次レビューの取組状況の報告に合わせて、必要なタイミングで進捗状況の御報告を行う。

(4)その他

資料9について説明

委員

現時点で目安が分かれば、いつ頃送付いただき、いつ頃締切りとなりそうか。昨年の例を踏まえると、コーディネーターとの打合せまでに、事務局から頂いた資料を回答するイメージを持っており、スケジュールについて心構えをしておきたい。

市

今後の日程は、コーディネーターとの調整になるため確定していない。予定として5月下旬に資料送付できればと考えている。事務局よりコーディネーターと事前共有を行い、その後、資料を送付させていただきたい。